



「自立・自尊」

～令和の時代を支えていくリーダーに～

学校長 横山 豊

新入生の皆さん、本日のご入学おめでとうございます。

鷲谷中学・高等学校の校長を務める横山豊(よこやまゆたか)です。よろしくお願ひします。

昨年、日本では台風19号に代表されるような天災がありました。また、雪がほとんど降らないなど、地球の温暖化が原因と思われる環境の変化・危機を、四季の変異とともに肌で感じさせられる1年でした。そして、日本が世界が、今まさに新型コロナウイルスの感染拡大という危機に直面しています。

ある新聞の3月5日の朝刊のコラムには、次のような記事が掲載されました。

店舗の棚からは、マスクやトイレットペーパーがなくなった。学校からは子どもたちの声が消え、遊園地にも人影がない。一ヶ月前、こんな状況になろうとは誰が想像しただろう。そして書店からは、かの名著の在庫がなくなったという。ノーベル文学賞作家のアルベール・カミュが、1947年に発表した小説「ペスト」。伝染病によって街が封鎖され、孤立状態の中で病氣と闘う医師や市民の姿が描かれている。(中略)読者は70年前の物語に、見えない不安と闘う現実を重ね合わせているのだろうか。小説を読んだからといって、感染拡大が収まるわけではないが、不安に駆られて買いだめに走ったり、根拠のない偽情報に振り回されたり、差別やいじめが起きたりするのを見るにつけ、小説に登場する医師リウーの「ペストと闘う唯一の方法は誠実さです」という言葉が胸に刺さる。

ざっと、このような記事でしたが、私はとても感銘を受けました。

今回のコロナウィルスの感染拡大による世界の危機的な状況は、これからの人類への大きな試練を暗示するようですが、我々人類は強い忍耐力と勇気を、そして何よりもこの記事にあるような「誠実さ」を持って、この危機を乗り越えていかなければならないという思いを強くしたのです。

さて、このような情勢の中で2度目の東京オリンピック、第32回2020年東京大会開催が予定されていましたが、延期となり、来年の開催となりました。

1964年。アジア初となる1度目の東京オリンピックは開催されました。それは、戦災から目覚ましい復興を遂げる中、本格的な国際社会復帰を果たした「戦後ニッポン」を世界にアピールするものでした。

時は、高度経済成長の真っ只中。当時、東京～大阪間は列車で8時間30分かかっていましたが、それを時速255キロ、4時間で結んだ「夢の超特急」こと東海道新幹線が運行を開始しました。その形がピストルの弾丸に似ていたところから、英語ではBullet Train(弾丸列車)と呼ばれました。そのほかに、首都高速が開幕直前に開通。今も日本の大動脈である名神高速道路が開通したのも、この時期でした。そして、当時の日本の経済成長は「東洋の奇跡」と称され、日本のGNPは西ドイツを抜いて世界第2位となりました。敗戦国、日本が自信と誇りを取り戻すための契機となったのが、1964年の東京オリンピックだったのです。

翻って、今度のオリンピックは日本に何をもちたらし、我々日本人にどのような「日本の未来」を予感させてくれるのでしょうか。

オリンピックにも語られているように、これからの世界が文化・国籍などにおいて差別のない、平和でより良い世界となっていくように、今回の東京オリンピックが、明るい未来を予感させるものになってほしいと心から願ひます。

ところで、明治36年の創設以来、本校の発展のエンジンとなってきたのは、「自立・自尊」という建学の精神です。「自分自身に自信とプライドを持って生きていかなば、人間としての自尊心は確立できない」という意味です。本校は、この「自立・自尊」の建学の精神のもと、「知・徳・体」のバランスの取れた教育を行い、これからの日本を支えていく「心豊かで、たくましく、自ら考え行動できる優れたリーダーの育成」を目指しています。

話は戻りますが、現在、新型コロナウイルスの感染拡大による目に見えぬ不安が広がっています。このような時だからこそ、医師リウーの言葉のように、情報を精査する中で、真実を見抜き、誠実に対処する、すなわち「自ら考え行動できる」人間になってほしいと思います。

昨年、平成から令和へと元号が変わり、この度「令和最初の入学生」として迎え入れることとなった新入生の皆さん。皆さん一人ひとりの夢の実現と、令和の、そしてその先の日本を立派に支えていく人間への成長を心から願ひ、信じています。ともに頑張りましょう。